

平成26年度総合文化研究所助成

「変体仮名教材作成の研究——文学作品を中心に——」に関する報告

岡 田 ひろみ

〔研究の目的〕

日本の古典文学、特に物語や和歌を写本や版本で読むためには、変体仮名を覚える必要がある。変体仮名には様々な字母のくずしがあり、また様々な書風があるため、仮名字典などを使っても、なかなか「字」にたどりつけない学生も多い。すでに、変体仮名読解の教材が、複数販売されているものの、それは例えば変体仮名を書きうつし練習するノートであつたりして、作品を読む、といった方向ではなかった。変体仮名を読む力は、授業外の、自学自習にどれだけ時間をかけるかで変わってくるが、自学自習するための補助教材が現在のところ作成されていないというのが現状である。また、販売されている教材の多くは健常者にむけたものであつて、視覚障害者にむけたものはこれまでほとんど作成されてこなかった。

視覚障害者に対しての補助として、たとえば、文学作品の点字化や代読、美術作品を立体的に触覚で感じとる教材等、文学芸術分野において、その開発研究がなされており、また、のぞまれてもいる。文学作品は点字化すれば読むことはできるが、「変体仮名」を点字化してしまつたら、「変体仮名を読む力」を養うことにはならない。では、どのように教えたらいのか。

本研究の目的は主に二点、①学生だけでなく、変体仮名を学びたいと考える人々が自主的に学ぶための教材を作成すること、②変体仮名を指導する立場にいる人間が視覚障害のある人々にも平等に教えることができるような教材を、また、視覚障害のある人々が変体仮名を学びやすい教材を作成することである。これらの研究成果は、視覚障害のある人だけでなく、変体仮名を読みたいと考えるすべての人々に対しても寄与するものだと考え研究をすすめてきた。

以下、本助成金に関する研究の概略を報告する。また、本稿につづいて、代表者（岡田ひろみ）及び共同研究者全員（内田保廣、半沢幹一、山本聡美、咲本英恵）で作成したテキスト教材一冊分と、共同研究者咲本英恵氏「視覚障害者向け変体仮名学習テキストの作

成について」、山本聡美氏「共立女子大学図書館所蔵『竹取物語絵巻』を用いた変体仮名教材制作」、研究協力者五十嵐有紀氏「共立女子大学図書館所蔵『竹取物語絵巻』トレース図制作に関する報告」による成果報告を三本掲載した。これら三本は、現在在籍する視覚障害を持つ学生に対しての指導や授業対応をもととした報告書である。変体仮名や絵を読みとる方法は主に「触読」で行ったが、文字や絵の立体コピー作成機を用いた印刷教材見本を、本紀要の最初に付した。是非手に触れてほしい。

〔研究計画〕

当初、研究実施計画として、大きく4つのテーマに分類した。その分類ごとに研究実績の成果について概要を述べる。

1) 現在発行済みの変体仮名教材(図書)についての研究[分担者…内田、咲本]
購入図書のデータ入力は終了している。

異体字集成20冊、仮名文字を読むための基礎資料60点もスキャナーで読み取り済みで、簡単な検索も可能な状態である。写本や版本の文字のバラエティを授業の際に、プロジェクターを使用して学生に示すことができる。

2) 変体仮名読解のための教材作成[分担者…岡田、内田、半沢、山本、咲本]

変体仮名を1年間かけて学習するためのシラバスを作成した。変体仮名学習だけでなく、扱う文学作品をゆるやかに古いものから提示し、個々の作品に影響関係がみられるものなるべく採用することにした。学生は、変体仮名読解を学ぶだけでなく、文学史、享受史も学ぶことができる。シラバスに基づく教材を、4月以降継続して作成してゆく。その際の写本は、竹取物語絵巻(共立女子大学図書館所蔵)、伊勢物語(共立女子大学図書館所蔵[総文研費で購入のもの])を積極的に用いる。

3) 視聴覚障害者のための教材作成[分担者…岡田、内田、半沢、山本、咲本]

・テキストの仮名入力(竹取物語、伊勢物語、源氏物語)

・字典、テキストの立体化

・仮名の点字化

・竹取物語絵巻（共立女子大学図書館蔵）の「絵」の書きおこし

以上4点の研究を継続中である。文字や絵を立体化したものの見本を本紀要に掲載している。

4) 研究会の開催〔分担者：岡田、内田、半沢、山本、咲本〕

教材作成に関する研究会を、2014年5月7日（水）、7月2日（火）、10月1日（水）、12月17日（水）、2015年3月14日（土）に行った。また、教材作成にかかわる『竹取物語絵巻』（共立女子大学図書館蔵）の写真撮影を2015年2月4日（水）、5日（木）に、『伊勢物語』（共立女子大学図書館蔵）の写真撮影を2015年3月24日（火）に行った。その後、これらの二本を中心とした、変体仮名教材作成にとりかかった。

〔変体仮名教材の作成〕

作成した教材は、まず反復学習と自学自習という点を重要視した。変体仮名のなりに字を書きこむページと書きこまずに読むページを作ることで、読めるようになるまで繰り返し学習できるように工夫している。あわせて、仮名を読むだけでなく、それぞれの物語内容も理解できるよう作品本文の注釈や解説を付した。変体仮名を初めて学ぶ者を対象とした教材であるが、文字の書きぶりは諸本によって様々であるから、付録として他本を使用した練習問題も掲載している。

更なる特徴として、「絵巻」を教材に使用した、という点がある。平安時代の物語は、多くの作品が「絵」とともに鑑賞されている。変体仮名で書かれた「ことば」の部分を読みつつ、「絵」を見る、という当時の鑑賞方法を学習者が体感できる。

また、変体仮名を学ぶにあたり、「文字」や「文学」に関する概説も力をいれた。概説を読むことで、変体仮名を機械的に学ぶ（暗記する）のではなく、「漢字」「万葉仮名」「変体仮名」というような「文字」の由来や成り立ち、「いろは歌」から現行の「50音図」に至る「文字」について理解しながら、変体仮名を読みすすめることができる。平安時代の文学史や享受史についても物語を中心としてはいるが、詳細に記している。物語作品の語釈や解説も変体仮名教材には不要との考えもあるかもしれないが、学習者が現在学んでいる教材に関して、深い関心を持って読むことができるようあえて組み込んでいる。

主に使用した教材は、本学図書館所蔵『竹取物語絵巻』と、同じく本学図書館所蔵『伊勢物語』である。『竹取物語』は「かくや姫」という昔話として幼児期から、古典作品としても中高校生から教科書に採られ、学生にとってなじみの深い作品の一つである。『伊勢物語』は業平らしき「昔男」の一代記的作品で、一二五段からなる。それぞれの段が、和歌を中心とした短編のため、変体仮名を読みつつも作品世界を味わえる。これら二作品は、初めて変体仮名を学ぶ人々にも接しやすいかと思いい教材とした。

本教材は、文字の大きさも実物より拡大している。そのことで視覚障害者が学習する際も、このテキストをコピーし、立体プリンターにかければ教材として使用できるようにした。行間もひろくとつてあるので、触読に適した教材でもあることを付けくわえておきたい。